



地域の支えあい機能の低下

町内会や地域行事、消防団などの担い手が不足し、地域の支えあい機能や防犯・防災力が低下する。



労働力の不足

若い世代の人口が減ること、企業・事業所等で働き手の確保が困難になるほか、農林水産業の担い手も不足する。

人口が減ると？
予想される
こんなこと



買い物や移動の問題

地域商店の閉店や公共交通機関の縮小・撤退により、高齢者や自動車を運転できない人の生活に影響が出る。



学校の統廃合

子ども数が減ることで、クラスの少人数化や学校の統廃合、地域の伝統文化の継承等が難しくなる。

日本の人口減少は、急速に進んでいます。国が公表した日本の総人口は、2021年10月1日時点で、約1億2,550万人であり、11年連続で減少しています。前年比では、過去最大の64万4千人の減少であり、これは1年間で鹿児島市を上回る人口が減少したことになります。

鹿屋市も例外ではなく、2006年の合併以降10万人を維持していた人口は、2022年4月1日時点の推計人口で10万人を切っています。人口減少の主な要因は、子どもの出生数が減っていることや、進学や就職を機に若者が都市圏へ出ていき、帰ってこないことなどが考えられます。

人口減少は、加速しています!!

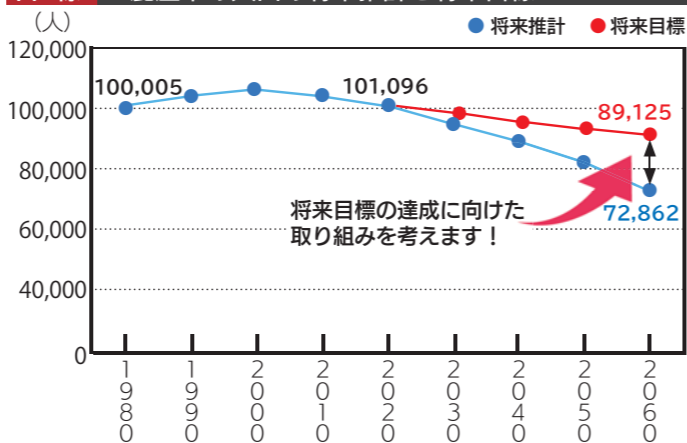
人口減少対策本部

現状 将来人口推計

項目(人口)	1980年	2020年	2060年 ※推計
日本	約1億1,706万人	約1億2,622万人	約8,674万人
鹿児島県	約178万4千人	約158万8千人	約120万人
大隅半島(4市5町)	約28万9千人	約22万3千人	約12万6千人
鹿屋市	約10万人	約10万1千人	約7万2千人

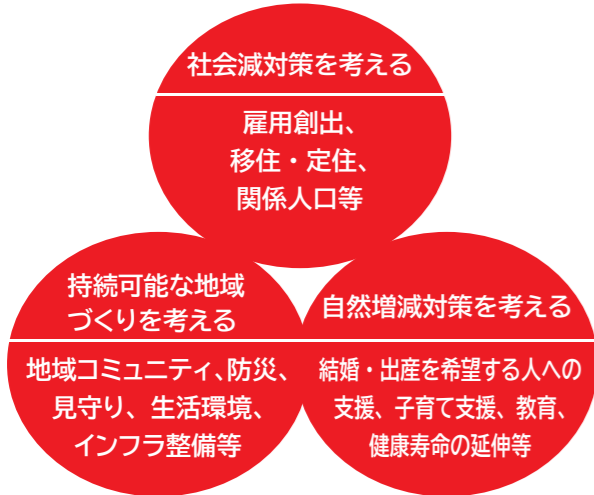
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」、鹿屋市「鹿屋市人口ビジョン」

目標 鹿屋市の人口の将来推計と将来目標



資料：総務省「国勢調査」、鹿屋市「鹿屋市人口ビジョン」

取組 目標達成に向けた取組

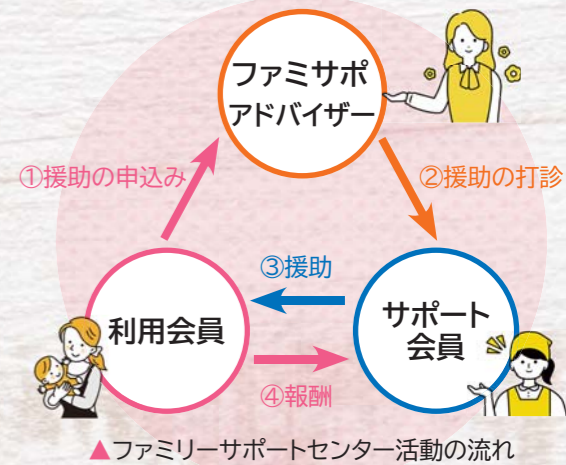


あなたの子育てを
応援します!!

「残業続きで、保育園のお迎えが心配」「自分の習い事や友人の結婚式に出席したいけど子どもをどうしよう」などと思っただけではないでしょうか。一方で、「子育て世代で困っている方々をお手伝いしたい」と思っている祖父母世代の方々もいらっしゃるかもしれません。利用者の側からだけでなく、子育てを地域ぐるみでお手伝いする組織が、「ファミリー・サポート・センター」です。鹿屋市ファミリー・サポート・センター（通称ファミサポ）では、育児や家事の援助を受けた人（利用会員）と援助を行いたい人（サポート会員）と

利用会員 335人
サポート会員 290人
両方会員 41人
※令和4年4月1日現在

員が会員となり、有償での支え合い活動を行っています。援助内容は「保育施設、習い事等への送り迎え」や「放課後・急用時等の子どもの預かり」などのほか、産前産後には、掃除や洗濯、買い物などの家事支援も行っています。子どもたちの直接的な支援に加え、子育て世代をサポートするために、地域で支え合うファミサポ制度。育児や家事の援助をお願いしたい、援助を行いたいと考えている人は、ぜひ、ファミサポにご連絡ください。鹿屋市ファミリー・サポート・センター ☎0994-44-2277



interview

2人の子育てに奮闘中の佐藤 沙耶さん



つどいの広場を利用したときに、掲示してあるポスターを見て初めてファミサポ制度のことがわかりました。私は関西出身で転勤族。いざというときに、見てもらえる人がいないことで困ることがたびたびあります。子どもが2人いるのですが、コロナ禍により行事参加への人数制限があるときなど、ファミサポ制度を利用しています。初めての利用の際には不安もありましたが、サポート会員の方と事前に顔合わせを行うことで、子どもとの相性や会員さんのことも知ることができ安心できました。また、預かり場所を選択できたことも助かりました。子どもにとってもサポート会員さんとの遊びや関わりは新鮮に感じるようで、新たな一面を見せてくれるほか、今ではサポート会員さんから育児のアドバイスももらうなど、温かく対応していただいています。

私と同じような環境の方は大勢いらっしゃるかと思います。頼れる人がいないときには、頼れる制度を活用してほしいと思います。